



# まるお

<道しるべ>

**情けは人のためならず**

人に対する親切や良い行いは、巡り巡って自身に返ってくることを示す言葉です。周囲の人間に対して、正しい行いをするという意思を固めることができるでしょう。

<学校教育目標>

自ら学び 自他を尊重し  
心豊かでたくましい生徒の育成

<重点目標（スローガン）>

**感謝+優しさ=笑顔と幸せへの道**

発行：長崎市立丸尾中学校

文責：校長 川口 猛

令和8年7月7日 NO21

## <お知らせ1>

準備に時間を要する準備品は、クロムブックで配信をいたします。

学校評価では、様々ご意見や評価をいただきましてありがとうございました。その中で、時間がかかる準備品については、早めにお知らせしてほしいというご意見を頂戴いたしました。そこで、今後は、生徒に早めにお知らせをするとともに、その準備品は、**生徒のクロムブックを通してお知らせをする**ようにいたしました。Tetoruの配信も考えましたが、細かい内容まで配信することになると、配信量が莫大になるとともに、tetoruを見なくなることも視野に入れての対応です。ご理解の程よろしく申し上げます。

## <お知らせ2>

### インフルエンザ流行期入りについて

県は8月27日、報道や新聞記事にも掲載されていたとおり、長崎県内においてインフルエンザの流行期に入ったと発表されました。

**昨シーズンより3週間程度早い流行期であり、新学期が始まり患者数の増加が今後懸念されます。**2学期も引き続き、手洗いや定期的な換気による予防、周囲に広げないためのせきエチケットなどを指導してまいりますので、ご家庭に置かれましても、細心の注意をお願いいたします。10月4日（日）には、丸尾中フェスタが控えています。また、インフルエンザに感染しますと、出席停止になりますので、丸尾中フェスタの練習や授業にも出席できません。始業式の日、学力向上の条件として、『**早寝、早起き、朝ごはん**』と話をしていますが、学力向上に限ったことではなく、自身の件保持のためにも、**規則正しい生活、手洗い・うがい、バランスのとれた食事、無理をしないこと**などは不可欠です。十分注意をお願いいたします。スマホの長時間使用は、心身を不健康にします。十分ご注意ください。

**クラブチームから九州大会に出場した3年生の生徒にインタビューしました。（個人情報保護のため、名前は控えます。HPにもアップしますのでご理解ください）**

インタビュアー：本日は、クラブチームから九州大会に出場したKさんにインタビューをいたしました。こんにちは。

Kさん：こんにちは。

インタビュアー：Kさん、あなたがやっている競技は何でしょうか？

Kさん：柔道です。

インタビュアー：柔道で九州大会に行ったと思うんですけど、ちょうど直前に熊本の地震がありました。どれくらい移動にかかりましたか？

Kさん：7時間くらいかかりました。

インタビュアー：7時間かけて鹿児島に行ったんですね。疲れたでしょう？

Kさん：はい。

インタビュアー：相当疲れただろうと思います。鹿児島に着いた時の第一印象はどうでしたか？

高家：えー、ここが今から自分が戦う舞台なんだなと緊張しました。

インタビュアー：実際にあの試合会場でどこ対戦しましたか？

Kさん：4県の相手と戦いました。

インタビュアー：中学校やクラブ名まで覚えてますか？

Kさん：いや、覚えてないです。

インタビュアー：覚えてないですね。試合結果はどうだったでしょうか？

Kさん：えー、1回……1回しか勝てなかったです。

インタビュアー：やっぱり九州大会となると、強さはどうですか？

Kさん：レベルが違いました。

インタビュアー：なるほどですね。あの、実際に経験をしてみて分かったことがたくさんあると思います。今回の経験で分かったことは何ですか？

Kさん：まず挨拶の声や、キビキビとした動きが違かったです。

インタビュアー：なるほどですね。競技だけではなくて他の部分でも違いがあるなということを認識したということですか？

Kさん：はい。

インタビュアー：なるほど、分かりました。えっと、まだ柔道は続けているんですね？

Kさん：続けています。

インタビュアー：次なる目標は何でしょうか？

さん：今回は団体に出れたので、次は個人も出たいなと思います。

インタビュアー：実際に中学校3年生という立場ですので、進路の選択もあると思うんですが、高校に行っても柔道をするということは、頭の中に入っているんですか？

Kさん：入っています。

インタビュアー：なるほど。あ高総体が来年の5月に、5月から6月にかけてあると思いますので、その時にあなたが活躍する姿が新聞やテレビなどで報道されたいなと私は思っています。

高家：ありがとうございます。

インタビュアー：じゃあ最後に、今回の九州大会の出場で感じたこと、思ったことを自由にどうぞ。

Kさん：中学校では行けなかった個人での全国大会に高校では出れるように頑張りたいと思います。

大きな舞台を踏むと新しい発見がある。強いチームには、強いなりの理由がある。これは、どのようなスポーツをみてもそう思います。春の甲子園で惜敗した長崎日大高等学校。甲子園の砂を持ち帰らなかったと言います。夏に、もう一度甲子園に来るから、持ち帰らなかったという選手の強い意志。すばらしいですね。試合も、地震で被害を受けた熊本県の代表の有明高等学校。相手も必死。長崎日大高校も必死。必死なものがぶつかり合うからこそ、感動が生まれるのだと思います。スポーツだけじゃないと思います。勉強だって、ボランティアだって、24時間マラソンだって、必死な心が人の心を動かすのです。『感動』という漢字。感じ、心、動くと書きますよね。凡事徹底で、小さなこと（簡単なこと）を、心揃えてぴしゃっとできたら、これって、『すげー』という感動につながり、あなた方の自己

肯定感・自尊感情の高まりになることでしょう。小さいこと（簡単なこと）を大事にし、意識し、しっかり頑張ること。皆さんの人生・進路の実現の上でも大事なことだと思います。人間、基礎が大事。ぶれない心が育ちますよ！

## 瀬戸内寂聴さんの言葉から

生かされているのですから、

素直に有難いと思ひましょう。

生きている値打ちがあるから

生かされているのです。

『せっかくの人生、生まれたことに感謝をし、自分らしい人生を歩んでいきたい。』ホームページで調べていたら、出てきたことばです。瀬戸内寂聴さんというのは、作家であり、天台宗の尼僧で、令和3年に亡くなられました。テレビその他出演していたので、写真を見れば、「ああ、この人か」と思うでしょう。彼女は、徳島県徳島市生まれで、東京女子大学国語専攻部を卒業し、人生の中で、様々な苦勞をしながら、作家として活動し、最後は尼僧として天台宗のお寺におつとめになられ、99歳で亡くなられました。

「素直に有難いと思ひましょう。」という言葉聞いて、皆さんはどのように感じますか？今年度の本校の重点目標（スローガン）の中に『感謝』ということばがありますが、これは、『素直に有難いと思うこと』……と私は考え、瀬戸内寂聴さんのことを調べたところでした。また、調べる中で、今年度のテーマの中の、『感謝』は、何事もあたり前だとは思わず、有難いと思うこと、つまり感謝が重要であると説いてきたので、ある意味間違いではなかったのかな……とも感じているところです。お墓で、この夏、お0お怪我をしながらも、今生きているのは、私の生きようという意思もあるかもしれませんが、『生かされた』という意味合いが強いと同僚の先輩の話から思いました。

つい先日、若いころに大変お世話になった先輩の先生が亡くなりました。64歳でした。まだまだ若い年齢。私が退職したら、沢山語り合いたかった先生でした。迷い、くじけそうになっている私の背中を押し、愚痴を聞き、いつまでも若いわけでもなく、年を取ってからの教職人生をどう過ごしていくかについて話をしていただいた尊敬する大先輩でした。その先輩の命が、教員としての私の命を生かしているのかなと考えるこの頃です。